隼人族の森を渡る風

創造の現場から　第6回

森の彫刻家　上床利秋

♬モーツァルトを弾きながら♪

完成作品「モーツァルトを弾きながら」（ブロンズ製）
像高22㎝ 台座12㎝（黒御影石）

美術仲間が、胸像制作の依頼を紹介してくれた。友人の住む地域の会社社長さんから相談を受けたという。鹿児島県美術協会運営委員同志としての信頼で紹介して下さったのだなと思い、特別に気合が入って制作することができた。

楽しい仕事になった。でもちょっと困ってしまうこともある。

その友達へのお礼は何がいいのだろう？

自分なりに色々と考えてみた。

その友達は困っている人を助けても、お礼を要求しない性格だからだ。

それじゃあ、奥様が喜ぶご主人からのプレゼントというコンセプトにしてみたらどうかな？ピアノを弾かれると伝え聞く奥様だから、そのピアノを飾る小さな奥様の笑顔の肖像ブロンズを。

この申し出には友人も素直に喜んで同意してくれた。そこで数枚の写真を利用して、粘土原型を三日間で一気に集中して創ってみた。

預かった笑顔の美しい表情の写真を基に、楽しくモーツアルトを弾いている表情を心掛けた。似せることは勿論のこと、贈られる側が喜んで下さらなければコンセプトにならない。写真から受ける未だ見ぬその人の性格を読み取り、今話題の3Dを超える内面性を感じさせることを課題として心掛けた。出来上がった作品を、こっそりご主人にだけお見せしたところ予想通りの感想。

さて、美術展会場で作品と初対面の奥様はどう反応されるのだろう。

精一杯の仕事をしてみたものの、この瞬間はいつも不安がよぎる。

この作品は5月20日から28日まで黎明館で鹿児島県美展にて展示される。この号が出版される頃、奥様のピアノの上でブロンズが可愛がられていればいいのだが。

最近、大作を制作していたので、今回の小さくて可愛いというテーマを選び制作できたのは自分にとって心のバランスをとることにもなった。

日展会員　第一幼児教育短期大学　教授

ご主人から預かったスナップ写真をもとにピアノを弾く奥様を立体造形としてイメージしてみる。

粘土原型の完成。このあと石膏取りしてF・R・Pに成形し、それをブロンズにする。